

「共謀罪」必ず国民に牙をむく

小説家

(神奈川県 49)

仕事柄、戦前の日本の諜報・防諜関連資料に目を通す機会が多いのですが、現在国会で審議中の「共謀罪」と、戦前の「治安維持法」の類似点多さに驚かされます。

治安維持法は、成立当初、政府も新聞各社も「この法律は一般人には適用されない」「抜くことはない伝家の宝刀」と明言していました。しかし、法律制定後の運用は事実上現場（警察）に丸投げされ、検挙率を上げるために多くの「一般人」が検挙され、取り調べの過程で殺されたり、心身に生涯癒えぬ傷を負

わされたりしたことは周知の事実です。

この結果に対して、治安維持法を推進した政治家や官僚たちが責任を取ることは、ついにありませんでした。

昨今の政治状況を見るかぎり、今の日本の政治家や官僚が戦前より優秀であるとは、残念ながらも思えません。「共謀罪」は、治安維持法同様、必ずや現場に運用を丸投げされ、早晚国民に牙をむく「悪法」になるのは火を見るより明らかです。同時に、結果に対して誰も責任を取らないであろうことも。

「共謀罪」の成立に強く反対します。